

日本医用画像管理学会

<平成 18 年度 日本医用画像管理学会学術大会>

日時 : 平成 18 年 10 月 7 日 (土) 14 : 00~16 : 30

会場 : 第 5 会場 ビックシップ (第 7 会議室 6F)

— プログラム —

総合司会 国立病院機構災害医療センター 麻生 智彦

会長挨拶 (14 : 00~14 : 15)

「国際技師認定制度について」

佐賀大学医学部附属病院 阿部 一之

会員発表 (14 : 15~14 : 45)

「フィルムレス診療に向けての本学の取り組み」

鳥取大学医学部附属病院 放射線部 山根 武史 先生

座長 : 有坂 義一 (JSMIM 理事)

Workshop in YONAGO (14 : 50~16 : 30)

「医療画像情報技師に求める障害対応のスキル」

座長 : 小西 康彦 (JSMIM理事), 池田 龍二 (JSMIM理事)

フィルムレス化やPACS導入施設の増加、さらには、これまで2回行われた医用画像情報管理士認定試験により、医用画像情報管理に対して何らかの関わりをもっている人が増加している傾向にある。医用画像情報管理を考える場合に、システムハードウェアやネットワーク全体、モニタ管理などハードに関する管理と、運用管理規定やユーザ管理、システム運用などソフト面での管理の両方を行わなければならない。常に安定したシステム稼働と運用が要求される施設での運用において、いつシステムトラブルなどの障害が発生するかは予測が不可能である。しかし、事前に障害発生の前兆や問題点を把握しておく事も管理の一つの作業だと考えられる。さらに、システムが停止している時間をどれだけ短くする事ができるかが重要であり、その為にはより高度なネットワークやハードウェアに関する知識が要求される。今回のワークショップでは「医用画像情報管理士に求める障害対応のスキル」として、システムを提供する側、サポートする側からユーザ側に期待する障害時の対応と、実際の現場で管理が行われている2名の先生方にユーザ側での障害対応時の問題点と必要なスキルについて講演頂き、最後にご参加頂いた皆様方と今回のテーマについてディスカッションしたいと考えている。

Worker

1 ベンダー

「最適なシステムの構築と運用のためにベンダーがユーザに期待すること」

東芝メディカルシステムズ株式会社 東京本社 SI事業部 SE部 部長 吉澤 哲也 先生

2 ユーザ1 (広島医療情報システム研究会)

「臨床現場における障害対応」

呉共済病院 放射線部 藤井 友広 先生

近年では、フィルムレス化にともない、画像システムの導入を行なう施設が急速に増えてきている。特にフィルムレス環境では、システムを停止させることなく安定稼働させることが重要となる。しかし、放射線科におけるシステム担当者は専任ではなく兼任であることが多く、日常業務を行いながらの管理となり、管理体制の整備が問題となる。障害に強いシステムを構築することは大切であるが、障害は起こってしまうものである。システム障害にも、プリンターのトラブルなどの小さなものから、システムが停止してしまう大規模なものまであり、さまざまな障害に対応していかなければならない。いつ発生するかわからない障害を、いかに損害を最小限に食い止め、いかに早く復旧させるかが重要となる。そのためには正しい判断と迅速な行動が必要となる。このようなシステム障害時に医用画像情報管理士はどのように対応していけばよいのか。そのために必要なことは何か、などについて考えてみる。

3 ユーザ2 (JSMIM学術委員)

「画像情報ネットワーク管理に求められているスキルと障害対策の工夫」

福岡大学病院 放射線部 上野 登喜生 先生

「画像情報ネットワーク」においてその規模は、全病院的規模のシステムから部内限定のシステムまで多様なものが含まれる。また、モダリティの数や構成端末数によってもその規模・ネットワーク構成は大きく異なる。

それぞれのシステムの管理において、必要となる知識やスキルの大きさは異なるが、どの規模においても、その根幹はネットワーク（LAN技術）である。

現在各々の病院において主力として働いている多くの技師にとって、ネットワークに関する知識は馴染みの薄かったものであるが、ひとたび責任者や管理者、チームの一員となった場合においては即、これらを前提にした実践的なスキルを要求される事態となる。そのような現実にあって我々放射線技師に求められている知識やスキルについて、考える。また、当院での例を参考に限られた予算規模の中での、障害対策の工夫を紹介する。

4 ディスカッション